

(平成 26 年度基金の運用計画)

(単位：千円)

事業区分	基金の保有区分	平成 26 年度 当初保管額	運用益繰入額	平成 26 年度 支出予定額	平成 26 年度 年度末保管額
海岸漂着物地域対策 推進事業	金融機関への預金	228,801	$228,801 \times 0.00185$ = 423	215,423	$228,801 + 423 - 215,423$ = 13,801
			※平成 26 年 4 月から 3 月ま で運用すると想定		
			※年利率を平成 25 年度第 3 四半期実績（直近）である 0.185%と想定		
合計		228,801	423	215,423	13,801

※本表は基金の保有区分ごとに記載すること

※基金の保有区分は実施要領第 5 の 2 で定める「基金の運用方法」を参考に記載すること

※運用益繰入予定額は保有区分ごとの利率を参考に見込み額を記載すること

平成26年度海岸漂着物地域対策推進事業計画書(各年度計画書)

(事業計画書作成担当者)

都道府県の名称	東京都		
所在地	東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 都庁第二本庁舎9階北側		
事業計画作成担当者	氏名	所属部局・役職名等	
		環境局廃棄物対策部一般廃棄物対策課	
	TEL	FAX	メールアドレス
	03-5388-3581	03-5388-1381	S0000636@section.metro.tokyo.jp

(基金事業の執行計画)

(単位:千円)

海岸漂着物地域対策推進事業	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	執行率
地域計画の策定・改定に係る事業	0	591	0	591	0%
海岸漂着物等の回収・処理に係る事業	0	4,035	162,205	166,240	2%
海岸漂着物等の発生抑制策に係る事業	0	0	53,218	53,218	0%
合計	0	4,626	215,423	220,049	2%

※事業計画書を提出する年度以外の年度は、執行済額又は執行見込額を記載する。

※執行率は、基金総額に対する執行済額の割合を記載する。

平成26年度海岸漂着物地域対策推進事業計画書(各年度計画書)

(事業計画の概要)

計画の名称	小笠原諸島における海岸漂着物対策推進事業計画、伊豆諸島における海岸漂着物対策推進計画(策定中)		
事業の実施期間	平成26年度	事業実施主体	東京都(環境局、建設局、港湾局)
平成26年度計画概要	<p>平成25年7月に策定した「小笠原諸島における海岸漂着物対策推進事業計画」に基づき、回収・処理事業を実施する。伊豆諸島については、現在計画策定中であり、平成26年度第1四半期の策定に向け、関係機関と調整を行っている。</p> <p><小笠原計画概要> (1)計画名称:小笠原諸島における海岸漂着物対策推進計画 (2)策定:平成25年7月 (3)対策内容【円滑な処理】○対象:重点区域海岸40箇所(6島) ○内容:海岸管理者等が村、住民等と連携して実施 【効果的な発生抑制】○内容:東京都及び村が連携して普及啓発等を実施</p> <p><伊豆計画の方向性> 対策内容は、小笠原計画と同様の方向性を予定している。 ○対象:重点区域海岸47箇所(8島)</p> <p><基金事業計画> 【円滑な処理】・海岸管理者等による大型ごみ等の回収を実施 ・住民等による日常的な回収に対して、都が技術的支援を実施し、海岸管理者等が廃棄物処理のノウハウを有する町村と連携して処理を実施 【発生抑制のための普及啓発】リーフレットの作成、小笠原での体験型実地講習の実施 【調査研究】・町村と連携して、自然由来の海岸漂着物のリサイクル実証実験 ・小笠原諸島における発生源等の詳細調査 ・今後の効果的なモニタリング手法等の検討</p>		

平成26年度成果目標

<p>1 回収・処理 回収に当たっては、住民・ボランティアによる自発的な回収活動を尊重しつつ、回収が困難な場所や大量の漂着物に対して、海岸管理者等が実施していくこととしている。このため、計画においては、回収・処理量に係る数値計画を推定値とした。 26年度は、経常的に必要となる経費のほかに、基金を活用した臨時実施分を加えて実施規模を設定した。</p> <p>2 計画作成 伊豆諸島における計画策定中(26年度第1四半期策定予定)。計画策定後、事業実施予定</p> <p>3 発生抑制のための普及啓発 住民等を対象とした回収方法や計量・分類についての体験型実地講習を実施し、小笠原での自発的な回収活動の継続と長期的な発生抑制を目指す。</p> <p>4 調査研究(回収・処理) ・自然由来の海岸漂着物のリサイクル(堆肥化等)による島内循環の促進</p> <p>5 調査研究(発生抑制) ・割合の多い、漁業系漂着物や東日本大震災に由来する災害廃棄物詳細分析を実施し、発生源を推定・分析。効果的な対策を検討 ・季節変動や対策施と海岸漂着物量との関連を考察し、今後の効果的なモニタリング手法や効果測定手法を検討</p>					
	<p>経常的</p>	小笠原	海岸管理者等による回収・処理	H26 回収処理量	備考
			住民・ボランティアによる回収(海岸管理者等が処理)	13t/年 程度	
		伊豆	海岸管理者等による回収・処理	13t/年 程度	
			住民・ボランティアによる回収(海岸管理者等が処理)	100t/年 程度	
臨時的	小笠原 伊豆	海岸管理者等による回収・処理 (災害や台風後等の臨時的な実施を想定)	300t/年 程度	推定値	

